

ぜひとも一緒にご覧ください。

移住案内パンフレット本編も

この本は子育てに特化した冊子です。

大田区キッズセンター
子育て支援部

北アルプスの麓 信濃大町で子育て

親子で移住を
お考えのご家族へ

定住促進アドバイザー
責任編集の **本音** 冊子

定住促進アドバイザーが編集に参加!!
移住を決める上で知っておいてほしい
情報を掲載しています。子育て経験者
の実際の声がいろいろ詰まっています。



地域が育てる おおまちっ子

長野県では、全県下の小中学校の「コミュニティスクール化」を目標に取り組み、平成29年度にはほとんどの学校で運営が始まりました。ここ大町市でも9校全てがコミュニティ・スクールに。特に地域活動が盛んなここ大町市は、「おらが学校」の意識を持ち、子どもたちの学びに積極的に関わる有志の方が多いのが自慢です。地域全体で見守る環境や、大自然の中で“おおまち子育て”してみませんか？

市内で最初に取り組みが始まった美麻小中学校を例に、その活動をご紹介します。

地域づくり会議と支援ボランティア「支援隊」、PTA…みんなで植栽して完成させた学校前広場「合校の森」



大町市の北東に位置する美麻地区は、平成大合併の波を受けて旧美麻村から大町市に合併した地域です。過疎や自治体消滅の不安の中、地域の自治を自分たちの手で「美麻地域づくり会議」という住民自治組織を立ち上げました。地域経営の役割とともに、地域の子どもたちの教育においても、当時文科省が推進した、「学社融合」の考えの下、学校で

「将来美麻に住みたい子どもゼロ」に危機感
平成の大合併の波を転機に
舵を切った「美麻」の学校

の学びに地域全体が関わろうという動きが進みました。

その頃、子どもたちを対象に取ったアンケート結果の中で、地域の人たちのお尻に火をつけたものが「将来美麻に住みたいですか」という問いに対する子どもたちの答えでした。結果はゼロ人。その時から地域づくり会議を中心とした美麻の人たちの挑戦が始まったのです。

美麻地域づくり会議と
美麻の学校

広報誌「みあさづくり通信」の発行やコミュニティ・サイト「美麻Wild」の運営、地区内の電話帳「コミュニケーション・ブック ha (話) na (名) su (住)」やコミュニティ・カレンダーの発行、集いの場としての「美麻市」など様々な取り組みを行い、地域の子どもたちと「共に学ぼう」と、時間割の「総合的な学習の時間」のグループ学習を「美麻市民科」として、住民参加の授業支援が始まったのが、平成23年でした。大学教授などを招き、大人も一緒に学び、また、子どもたちは地域の人からも学ぶ授

※コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

文部科学省が推進する地域とともにある学校運営の形。地域住民が学校運営に参画できるようにするために、地域の人たちで組織し、学校運営に関することや教職員の任用に関することへの意見が可能な「学校運営協議会」を置く。「信州型」は長野県が推進。支援ボランティアによる学習支援に力を入れ、「学校運営委員会」を置くのが特徴。

地域の大人と子どもが、新たな特産品として「花豆」を再発見し、企画からPRまでを一緒に考えて作った「美麻の花豆モンブラン」



業の中で、地域の宝（魅力）を共に再発見しながら、その情報発信までを、一緒に行っています。

学社融合から コミュニティ・スクールへ

美麻地域づくり会議と美麻の学校、長野大学の連携による地域教育プログラムも同時に始まりました。平成25年には、それまで小中併設校だった美麻の学校は、小中一貫の「美麻小中学校」としてスタート。翌26年には文科省型のコミュニティ・スクール運営が始まりました。

美麻の学校の魅力を聞きました！



美麻小中学校 学校支援コーディネーター
美麻地域づくり会議 会長

前川浩一さん（美麻大塩・平成5年移住）

学校運営協議会を通して「声」が学校づくりに取り入れられている実感がある。子どもや先生たちの困りごとを、みんなで一緒に考える姿勢を持つことで先生たちも安心するのではないかと。学校周辺の自然を生かして、住民講師が子どもたちを教えられるのも魅力。



地域有志「美麻岩魚倶楽部」が養殖し提供する岩魚給食

国際感覚と自律を養うメンドシーノ交流



が
こま
こじ

グループと個の総合学習

市民科はカリキュラムとして継続されていて、何から始めれば良いか迷う子どもがおらず、すぐに地域の協力者に電話をかけるなり図書館に行くなりしながら学ぶ姿があたり前になっています。自分の好きなこと、興味を追求する「個」の総合学習「夢の時間」も素晴らしいです。

が
こま
こじ

協働の学び

グループ学習とアクティブラーニング（能動的学習法）を取り入れた「協働の学び」が、コミュニケーション力を高めています。分からないことを素直に聞ける、人の話をちゃんと聞いている子ばかりです。子どもたちの「自分で考える」姿、先生の研究熱心な姿にも感動します。

が
こま
こじ

海外ホームステイ

隔年でアメリカ・メンドシーノの姉妹校と行き来する交換留学。小学生で親元を離れホームステイを1週間経験。受入れ年には地域の一般家庭がホストファミリーも担います。外国人にも抵抗感がなく、これを機にみんな自律します。大変だった出来事でも子どもたちには成長の糧になっていると実感しています。

が
こま
こじ

ランチルームで自校給食

大町市の小中学校は、すべて自校給食で、子どもたちにも好評です。美麻小中はランチルームに1〜9年生（中3）が集まって食べるのがいいですね。『岩魚給食』や子どもたちが献立を考える『お好み給食』も人気です。

が
こま
こじ

年齢を超えた集団づくり

上級生が下級生を気遣っており、一方で下級生は上級生を尊敬していると感じます。全校合唱は、いつ聞いても感動します。学校がどんどん良くなって来ていることに、地域の人たちが気が付いていることが素晴らしいと思います。

が
こま
こじ

地域と一緒に元気アップ

公民館と合同で体づくりに取り組む「元気アップ運動」を東海大学のサポートを受けて続けており、「自分の体について目標を持って運動しよう」という意識が育っています。

山村留学発祥の地・八坂

美麻地区同様、旧八坂村から大町市に合併した八坂地区は、40年以上前に「山村留学」が始まった発祥の地です。昭和43年に発足した「育てる会」が、青少年野外活動センター「やまなみ山荘」の運営を旧八坂村で始めたのが昭和50年。以来、累計で1,059人の都会の子どもたちを受け入れてきた山村留学とともに歩んだ八坂の学校もまた、地域の人たちが学校を見守る風土の色濃い地域です。

「育てる会」八坂・美麻学園って

どんなところ？



歩いて学校へ通う八坂の子どもたち



育てる会八坂・美麻学園統括主任
赤坂隆宏さん（平成15年移住）

宮城県で育ち、都会の大学に進学。都会で暮らす子どもと田舎で育った子どものギャップ大きさに驚くとともに、帰省時にはふるさとでの自然の素晴らしさを実感。「子どもが育つにあたっての自然体験の必要性は普遍的。子どもたちに大切なことは何だろう？ そう考えて、伝えていく仕事につきたいと思った。山村留学での様々な体験を通して、自然に湧き出る興味関心の中から課題を見つけて欲しい。山留生活を、個々の持ち味や光るものを引き出していく体験に」

山村留学について詳しくは、
公益財団法人 育てる会 HP へ



センターから八坂小までは片道4キロ、八坂中までは片道5キロを毎日往復します。登山やキャンプ、冬にはスキーを体験。炭焼きや太鼓などにも挑戦します。

自分の足で歩き、
自然の中で遊ぶ

山村留学の子どもたちの多くは都会育ちです。親元を離れ、テレビやゲームなどからも離れて、八坂・美麻の学校に通い、1か月のうち約半分をセンターで、もう半分を農家にホームステイします。地区の行事に参加をしながら農体験や伝統文化を知り、地域の人に山の生活の知恵を学んで、「困難を自分の力でも乗り越える」たくましさを育てます。

農家にホームステイ、
八坂・美麻の学校に通う



農作業は自分たちの食べる物を作る苦労を知って欲しいと手作業を中心に、春には味噌玉で仕込む自家製味噌を作って1年間食べます。「当たり前にある便利」に気づき、耐える経験も積んで欲しいと、自然の厳しさもあえて経験。希望者には食材だけを持参して、電気やガスのない場所での本格的なキャンプや、雪中キャンプも企画するそうです。

「耐える」こと
「たくましさ」育んで

※山村留学の入学先として八坂学園と美麻学園のどちらを選択するかで、ホームステイする場所と通学する学校が決まります。

八坂小学校での学び

木を生かした内装の校舎内には、野外の体験学習後などに入ることができるお風呂があります。小学5年のコメ作り学習では、水路の管理から苗づくり、田植え、収穫まで全工程を体験します。

少人数なので、あまり積極的でない子も一度はリーダーの役割を任せられる機会があったり、年齢を超えた付き合いから多くのことを学びます。友達同士では一人ひとりが相手のことをよく知っているため、関係がぎこちなくなることもあります。そこから学ぶ人間関係もあります。

先生も家庭のことを理解した上で、子どもと向き合ってくれます。

見守ってくれる地域

地域にある史跡（摩崖仏や崖上の神社）や山（城が峰や大姥山）など



子育て経験者の
訪問インタビューを実施
定住促進アドバイザー
川面 優さん
(平成25年八坂移住)

八坂の移住者の 生の声を集めました！

に遠足に行く機会があり、地域を見ることが広がります。地元の人はいつも子どもたちを気にして声を掛け、見守っています。キノコの駒打ちや花苗づくりなど小学校行事の手伝いに来てくれることもあります。地区の運動会は小学校と保育園と合同で、近所のおじちゃんおばちゃん、家族、友達、先生と皆で参加し交流します。世代を越えて多くの人と関わります。

山村留学の都会の子どもたちとの触れ合いは、子どもの世界を広げます。一年の留学で帰る子もいますが、一期一会の人間関係の大切さを学びます。

固有の自然と文化

坂の多い八坂のコメ作りは棚田で行います。水が張られる時期には、周辺の山々や谷間の民家と調和した景色が映し出されます。コメ作り学習をした子どもたちは心強い助っ人です。その他にも、小学校では伝統料理の「灰焼きおやき」や種まきからそば作りを学ぶことができます。空が近く夜は星がきれいで、水と空気のおいしい八坂では、子どもは野山で遊びまわり、山菜採り・キノコ狩り・キイチゴ摘み・タケノコ狩りなどを自然と覚えます。下校時の

寄り道はちよつとした冒険です。崖の上を歩き、カモシカやニホンザルなどと出くわすこともあります。大人から見るとハラハラもありますが、そういった体験からしか学べないものを子どもたちは得ていきます。

鍛えられる通学路

八坂の通学は冒険の場であり、鍛錬の場であり、交流の場でもあります。足腰が強くなります。中学の部活で遅くなり、暗い夜道を一人で帰る状況があり、地域としても心配だという声もあり、冬はスクールバスを出すようになりました。

どういう大人になるか

子どもたちは、少人数で縦割りの人間関係や、地域の大人たちや先生の見守る中で自尊心を育み、自分も他人も大切にすると成長します。自然の中で遊ぶことで学んだ自立した精神と強い足腰が子どもたちの根っことなり、強く優しく生きていくことができると思います。地域と自然を生かした子育てをするには、少し面倒くさいけれども楽しみながらかかわる家族の姿勢が大切です。

市内の小中学校・義務教育学校9校

市内の小中学校の通学区は大町市のホームページに掲載されています。→美麻と八坂の小中学校は小規模特認校制度によって旧大町市（大町・平・常盤・社）からの通学が可能となっています。ただし、八坂と美麻の間での地域を越えての通学はできません。それぞれの学校に関する詳細は以下に示すホームページにて確認することができます。

小 学 校	市立大町東小学校 ☎0261-22-0611	市立八坂小学校 ☎0261-26-2010
	市立大町西小学校 ☎0261-22-0019	市立第一中学校 ☎0261-22-1262
	市立大町南小学校 ☎0261-22-0521	市立仁科台中学校 ☎0261-22-1817
	市立大町北小学校 ☎0261-23-0190	市立八坂中学校 ☎0261-26-2020

大町市の
子育て環境に詳しい
地方紙契約記者
定住促進アドバイザー

中山 亜輝子さん
(平成24年移住)

市立美麻小中学校
☎0261-29-2004

八坂・美麻だけでなく、大町は子どもを守る力が強い地域。例えば「西小 桜の木を守る会」の人たちは、西小中学校の伝統ある桜並木の保全を担い、「NPO 仁科の里造り」の皆さんは、子どもたちに農体験を提供しています。他にも団体・個人に関わらずたくさんの方が学校に関わり、授業で教える住民講師が増えています。母親として良い地域で子育てできていることがうれしいです。

先輩に聞きたい

いまの仕事より
早く帰れて
家族の時間が
増えるといいな

子どもたちの
転園が心配

いろいろ
聞きたい!



移住体験談

実際の住み心地を
齋藤さんに
聞いてみましょう。

「田舎で子育て」の 夢と現実はあるそれぞれ

憧れの「田舎で子育て」。でも…、憧れだけで突っ走っていいの？ 転園や転校は？ 心配が付きにくいのが、親心というものではないでしょうか。田舎は自然が豊かで子どもが自由に走り回れる場所が多い反面、裏を返せば、それだけ不便もあるということ。それに、移住でなくとも転校や転園は、子どもにとって良くも悪くもストレスになるものです。

「学校は近いの？ 徒歩で通える？」
「家族の時間は本当に増える？」
「私も働きたいんだけど、保育園の競争率って高いの？」
「移住後、子どもたちの変化は？」
「山間部と市街地ではどちらが良いの？」

先輩移住ファミリーたちにいろいろ聞いてみました。

思っていた通りのこと、予想外のこともなど、経験者からこそのセキララな話しが、たくさんあるものです。

メリット・デメリットをきちんと考えて、それぞれの家族にピッタリなタイミングや地域を選んで移住できたらいいですね。

3歳の息子が、よそでは水を飲まなくなりました。大町の水、おいすぎます。だって湧水だから。

大町市は囲碁のまち。アルプス囲碁村会館の囲碁教室は高校生まで無料だって。さあ囲碁で英才教育！

通学定期が高い！ JR 高い！… と言っても地方の私鉄よりは安い。

部活や習い事、友だちの家で遊ぶにも… 送り迎えが大変。車があった方が圧倒的に便利です。

家族の会話の時間がムチャクチャ増えました。外食のお店も田舎にしては十分あります。

北と南で積雪が全然違う！ 「お嫁に行くなら電柱一本でも南へ！」と言われるほど。

地元っ子は意外に山に登らない、スキーもスケートもやらない。大人もだけど。

リレーとかマラソンとか大好きな土地柄。小学校のクラス単位で松本や長野に遠征して走っている。

全校自校給食です。温かくておいしい給食を食べることができます。更に地元食材です！

参加無料のイベントや祭が多く、親子で楽しめる。松本・安曇野・白馬など近隣含めると本当に沢山。

カモシカや猿を普通に見かける。山へ行けば雷鳥や熊を見かけることも。

子どものアトピーが治った。空気はきれいですが乾燥しているので、お肌のケアは必ず！

学校に塀がない。どこからでも入れちゃうので驚いた。変質者が少ないデース！

夏休みが短い！ 春休みも冬休みも特に長くない？ 秋休みも今はない。なんで？

定住促進アドバイザー



梅田 敏男 さん
(昭和57年移住)

ミニコミ誌で発信中！

移住のつづきを求めて

知識は後からでも大丈夫。
小さいうちは自然から“大きなこと”学んで欲しい

平成27年移住
齋藤 英毅さん
裕子さん
咲和ちゃん



鹿島槍ヶ岳の残雪と菜の花が美しい春の中山高原

齋藤さんも登録している
“移住・定住協力店&協力者制度”
話を聞けるお店や個人がリストされています。

英毅さんが「大好き」だという
美麻小藤からの棚田の絶景

大町市 HP →



鎌倉の自然の中で 野外保育に携わった

齋藤さん一家は、神奈川県鎌倉市から2015年に移住。鎌倉は野外保育の盛んな土地ではありませんが、近くにはなかったため、仲間と立ち上げたと言います。父の英毅さんは「色彩でも何でも自然の中の小さいうちの体験からは、大きなことが学べると思う。日々の環境としてただ自然の中で五感を使って過ごすことでしか得られない「感性」を育てられたら」と話します。

体験ツアーに参加し 美麻に魅せられた

移住後目指したのは「半農半X」の暮らしでした。若い頃から自分で食べるものを自分で作る暮らしがしたかったと話します。そんな一家は、長野への移住を考え始めたころ、大町市の「冬の暮らし体験ツアー」に参加したそうです。当初、雪深いイメージの大町市は視野になかったと言いますが、実際の冬の様子を見て、翌春の移住ツアーにも参加することになりました。その時に立ち寄った美麻地区や美麻小中学校の雰囲気魅せられ、移住を決めました。

本好きな女の子に成長

実際に美麻の学校に通うようになると、絵を描くことが好きな咲和ちゃんの本が大好きな女の子に成長しました。「本音はもつと外で遊んで欲しい」と曖昧な笑顔の英毅さん。でも、冬には親子でスキーに行ったり、夏には木崎湖へ泳ぎに行くことも多いとか。授業は少人数で目が行き届いているように感じると言い、「参観日に見ても、よく発言している。また、中3までが同じ学校。これだけ年の離れた子どもが日常的に関わる環境はなかなかないことで、娘も9年生(中3)に憧れたり、よい刺激を受けている」と笑顔を見せます。

不便だから学べることも

「学校は勝手に張り切って行くものだと思っていた」と英毅さん。ある朝、起床が遅い咲和ちゃんを急かさずそのままに。案の定スクールバスに乗り遅れ、父とともに約1時間の道のりを歩いて登校したのだとか。「乗り遅れるとどうなるか知って欲しかった」といたずらっ子のように笑います。不便から学ぶことも多いもの。こんな余裕ある育児スタイルも田舎ならではのかもしれません。

親と子ども

子育ての実感



同じ市内でも気象も人柄も地域差あり。事前調査が大事です。



素直な子どもが多い

大町市の子どもの印象は「ずれていない」かな。繁華街がない、甘い誘惑がない、電車も少ないから家に帰ってくるしかない。そのうえ、地域で見守ってくれる。ここには相談につてくれる大人が大勢いるのが親としては心強いですね。

自然を常を感じる地域だから自然から四季を感じる心が育ちます。うちの子は、大町の外に出て初めて、その素晴らしさを実感したようです。私は読み聞かせサークルに所属していて、南小と仁科台中で授業が始まる前の「朝の読書の時間」に、ほぼ毎週、朗読を行っています。読む本の総数は6年間で80冊にもなります。図書館の呼びかけで始まった活動で、読み聞かせの団体は、市内に8団体あり、勉強会も行われています。各団体がそれぞれの地域の学校を担当しています。

大町市の子どもたちはとても素直。反応がしつかり返ってきます。集中して聞いてくれるのが嬉しいですね。

子育てが一段落した都会からのお嫁入り主婦



まだまだ聞きたい

定住促進アドバイザー



八木 真紀子さん
(平成17年移住)

自給自足な生活を実践中

野外保育で得たもの

子どもが「わつこひろば宙」に2歳から通園しました。先生が言っていた様々な言葉の中でよく思い出すのが、「自分で遊びを見つめる(作れる)子」。外・中両方でたくさん遊んで過ごした習慣からか、4年生になる今も、ありあわせのもので工作したり絵本を作るのが好きで、畑仕事も楽しそうにしています。卒園してからも、行事の時はもちろんいつでも遊びにおいでと声をかけてくれ、ずっと楽しい居場所であり続けてくれることに感謝しています。

心配ごとは定住促進アドバイザーに気軽ににご相談ください。

何もなくても楽しめる

子育てして思うのが、「大町ではレジャーはお金や手間をかけなくても楽しめる」ということです。近くの公園でも緑は多いし、眺めも抜群。簡単なお弁当(面倒な時はスーパリーやコンビニで調達!)を持って行けば、それだけで最高のレジャーになります。家の庭で花見やお弁当を食べたことさえあります。

息子はいつも、そんなお金のかからないレジャーを楽しんでいました。公園が大好きだったイヤイヤ期には、「山に太陽があるから夕方。まだ帰りたくない」と泣く息子の姿を見て、自然とともに育ち、自然からの情報の読み取り方を体験から身につけていくことの素晴らしさに、都会育ちの私は感動したものです。

その息子も早、6歳。昨夏、東京まで戦隊ショーを見に行ったのですが、駐車場もなにもかもにコストがかかることかかると(驚)。「都会は金が全てか」と、逆カルチャーショックを受けました。

ただ、息子は初の都会に大喜び。そして「どうして東京には山がないの?」夕方が分からないよ」と(笑)。自然の良さをちゃんと認識するためにも、息子にはたまに都会の空気にも触れさせてあげたいな、とも思いました。

子育てしながら大町の魅力発掘に励む主婦



入園前なら親子教室へ

保育園・幼稚園入園前の乳幼児と、その保護者を対象とした「親子教室」が、それぞれの地域の公民館などで年間を通して開かれています。親子のふれあいの時間として、また、孤独になりがちな乳幼児子育て中の交流の場として、人気の講座です。地域により、保育園との交流など特色も違い、他地域から参加可能な講座や、登録不要の講座もあります。

親子教室

大町公民館 (☎22-9988) すくすく広場
社 公民館 (☎22-0378) なかよし広場
常盤公民館 (☎22-0321) ともだち広場
平 公民館 (☎22-0694) ひよこクラブ
八坂公民館 (☎26-2380) すこやか広場
美麻公民館 (☎29-2311)

パンダクラブ (1歳以上)
コアラクラブ (1歳未満児)

ここで育った子は都会への憧れがあるみたい。

前・定住促進アドバイザー



山本 晃司さん
(平成9年移住)

田舎の子育てで良かったことは、勉強だけに追われずに済んだ事かな。こっちはのんびりしているからね。

春から秋は米作りと農業指導。冬は杜氏です。

通学の事情

田舎の通学事情は、都会のそれとは大きく異なります。
ラッシュアワーの満員電車や交通渋滞は無いけれど
学校がやたら遠かったり、公共交通手段がなかったり。
それでも子どもたちは、各地域で元気に通っているのです。

子どもたちの通学事情

広い大田市。通学距離もおのずと遠くなります。

八坂地区は徒歩が基本ですが、国道19号沿いの地域は遠過ぎるため、小学校近くの八坂支所までバスを利用します。

美麻地区はスクールバスが運行していますので、家からバス停まで歩くだけで済みます。唯一の例外は山村留学生で美麻小中に通う子どもたち。バス停から山留センターまでの1.5kmを歩きます。

東小は社地区南部のみバス通学。西小は市街地にあり、学区はすべて徒歩通学です。

南小の学区は南北8kmの広さですが、全員が徒歩通学。片道4km以上、約1時間歩く子もいます。

北小の学区は広大です。東回り、西回りのスクールバスがあり、東回りは白馬村境の青木湖北端まで、西回りは大町温泉郷を経て、爺ガ岳スキー場の先まで走ります。さらに、市の西部の別荘地やエネルギー博物館方面の子どもは路線バスを利用します。

中学生になると自転車通学が認められます。

木崎湖より北、信濃常盤駅より南のエリアは、電車通学となります。通学定期券は教育委員会から支給され、個人負担はありません。社地区南部の仁科神明宮方面と、平地区西部の上原方面は、中学生

になると路線バスを利用します。さらに爺ガ岳スキー場方面は、朝だけスクールバスで、帰りはタクシーを利用することもあります。交通機関の料金は教育委員会が負担します。



話だけ聞くと大変そうですが、歴代の子どもたちが通ってきた道です。雪が積もっているときなどは、徒歩や自転車は危険なので、親が車で送迎するのを良く見かけます。

実は大変なのは部活

本当に手間なのは、日々の通学ではなく、部活動の送迎です。大会ともなれば、県内でも片道2時間の移動は珍しくなく、北信越や東海の大会ともなれば、金沢や名古屋にだって遠征します。

子育てを終えた方に聞くと、部活の送迎は大変だったと皆さん口を揃えます。しかし、辛さを愚痴るわけではなく、忙しかったけれど、子どもとの充実した日々を共有できたことを素直に喜んでいる様子でした。

高校生になって部活動を始める、と、ほとんど親の送り迎えが必須となります。親には負担となりますが、子どもには「親に感謝する気持ちがある」と言う良い面もあります。

高校への進学

長野県では公立高校は約80校、私立高校は約15校で、部活や特色ある専攻を選ぶために私立を選ぶ人もいます。大町市の高校生は、市内の大町岳陽高校のほか、白馬村、池田町、安曇野市、松本市の高校にも通っています。松本までは電車で約1時間。多くの進学校や職業高校もあるため、松本方面へ通学する生徒も多いです。その場合、特に八坂・美麻地域は、バスの事情で駅まで保護者の送迎が必要になり、あらかじめ考慮しておくことも必要です。

大町市の近隣地域では、職業高校（工業・農業・商業）への進学も人気で、地域や企業との交流や盛んな部活動、高い就職率もあり、推薦で大学進学する生徒もいます。また、高等専門学校や看護科など特殊な専攻科のある学校は遠い地域にあるので下宿する人もいます。

近隣の高等学校と設置学科

（北安曇郡、大町市、安曇野市、松本市の高校 + 国立高等専門学校）

県立 大町市：大町岳陽高校（普通・学究）

普通 | 2年生は理系、文系、教養の3コース、
3年生は理系、医療看護、文系、教養の4コース
学究 | 2年生から自然科学、人文科学の2コース

白馬村：白馬高校（普通、国際観光）

池田町：池田工業高校（全日制：機械、電気・情報システム、建築 | 定時制：普通）

安曇野市：明科高校（普通）

豊科高校（普通）

南安曇農業高校（グリーンサイエンス、環境クリエイト、生物工学）

穂高商業高校（商業、情報マネジメント）

松本市：梓川高校（普通）

松本工業高校（機械、電気、電子工業）

松本県ヶ丘高校（普通、自然探究、国際探究）

松本美須ヶ丘高校（普通）

松本深志高校（普通）

松本蟻ヶ崎高校（普通）

松本筑摩高校（多部制：普通、通信制：普通）

私立 松本市：エクセラン高校（普通、美術、福祉）

松本国際高校（普通、環境福祉、マンガアニメ、WEBクリエイター）

松商学園高校（普通、商業）

松本第一高校（普通、食物）

国立 長野市：長野高専（機械、電気電子、電子制御、電子情報、環境都市）

特別支援学校

県立 池田町：安曇養護学校

松本市：松本盲学校

松本ろう学校

子どもたちは、個性に合わせてそれぞれの道を選んでいきます。一方で地方の小都市ながらしっかりと進学実績もあります。

全国レベルで活躍するクラブ・団体

大町市は。パワースポット？ 凄い子たちがぞくぞくと誕生中

小地方都市にもかかわらず大町市の子どもたちが躍進しています。そこには熱意ある指導者と努力を続ける子どもたちの姿がありました。ほんの一部ですが、最近の事例を紹介します。



体操／ジム・ネット体操教室

平成29年全国中学校体育大会において大町第一中学が体操の女子団体で全国2位（平成27・28年は2年連続全国3位！）。躍進の原動力である3選手が所属し、練習をしているのがジム・ネット体操教室。自前の施設をもつ体操教室は県内で唯一のこと。

幼児対象のクラスから全国を目指すクラスまで成長に応じて選択できるクラス編成で、全国レベルの成績と体操の裾野拡大の二兎を敢えて追い求めている教室です。

空手／剛柔流剛誠館

平成29年のえひめ国体・空手女子形の部で剛誠館出身の田中美佐稀さんが優勝、宇海水稀さんが3位。宇海さんはインターハイ3連覇を含む高校7冠も達成。東京五輪から正式種目となる空手で注目を集めています。38年の歴史を持つ剛誠館は、メンバー28人の半数以上が黒帯で、小中学生でも全国大会に進む選手が何人も。さぞ厳しい練習をと思われませんが、驚くほど和気あいあいとしたもの。館長の遠山現賢さんとコーチたちが礼節はしっかり守りながら、人格的にも優れた武道家となるよう指導しています。



書道／信濃書写教室

全国規模のコンクールのみに応募しながら、内閣総理大臣賞や文部科学大臣賞など最上位の受賞者を20年で延べ20名以上送り出している実力派教室。礼儀を重んじる指導方針の下、美しい字を身につけようと多くの子どもたちが学んでいます。平成29年度には仁科台中3年の平林遙さんが全国硬筆コンクールで中学の部最高賞の文部科学大臣賞、さらに全国学生書写書道展、高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会でも上位入賞を果たしています。



水泳／大町スイミングスクール

競技人口の多い日本の水泳界で成績上位に入るのには並大抵ではありません。その状況でこのスクールはコンスタントに成果を挙げ続けています。施設の玄関には賞状が壁一面に貼られています。最近では塩入龍斗さんが男子50m平泳ぎで短水路日本高校新記録、平成30年の全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会には3人選出、男子50m平泳ぎで近江ハリーさんが3位獲得。また、クラブも同大会への10年連続出場により優秀クラブ表彰されました。

子どもが伸びる秘密とは

なぜ大町市の子どもたちがから全国レベルで活躍する子が出てくるのか、各スクールの指導者に伺いました。大町スイミングの近江コーチは、『人数が少ないから一人ひとりに丁寧に指導できる点があると思います。また、自分が決めた一つのことをコツコツと最後までやり抜く力を大町市の子どもたちは持っていると思います。』と語ります。

信濃書写教室の峰村先生は加えて、『子どもたちは結果を出したことを褒めてもらおうとすごく喜んで。この町は周りの大人が子どもへの受賞を良く知っているので、新聞等に受賞が載ると、電話や声掛けをしてくれます。それで本人たちは気を良くして、もうちょつと頑張ろうって気になる。そうやって長く続けることが力になっていると思います。』剛誠館の遠山館長も子どもたちの自尊心をくすぐりながら、正當に評価することの大切さを説きます。『道場は完全に実力の世界です。年齢に関係なく上段者が敬意をもって処遇されます。すると子どもたちも誇らしく、もつと頑張ろうという気持ちになる。そうして成長した子は人間的にも立派です。そしてその子がさらに下の世代を育てます。』ジム・ネットの甘利代表の言葉が象徴的です。『私は、この環境をどうしても子どもたちに用意してあげたかった。だから、いろいろ大変だけど頑張って教室が続けます。』—子どもたちの活躍を大人たちが支えています。

奥原希望選手のふるさと！

中学まで大町市で育って良かったことは、なんといってもバドミントンに出会えたこと。何より一番うれしかった。最初からこうなるとは思っていなかったけど、途中からは本気で苦しい練習を重ねてきた。大町北高校でお世話になったことや親、兄弟、一緒にバドミントンをした仲間、みんなに感謝しています。大町市は、山がきれい。自然があつて広々としたところが気に入ってます。とてもいいところです。

バドミントン | 大町キッズ

リオ五輪女子シングルスで銅メダル獲得の奥原希望さんも所属していたのが大町キッズです。「楽しくバドミントンができてよかった。友達と楽しい時間を過ごせていい思い出になっています」と当時を振り返ります。現在でも年末に帰省の折にはクラブを訪問し、子どもたちと交流しているそうです。

代表の降旗克己さんは「子どもたちが楽しくバドミントンできるよう指導しています」と語ってくれました。

小学生のパパとママが作った 子どもの可能性を広げるイベント

選択肢が多いと、自分に合うものを探すのも大変で、座が体験可能。講師はそのすが、大町市にはキッズデイという小学生向けの素敵なイベントがあります。「キッズデイ・サマー」は夏休み中に開催され、子どもたちは、運動から芸術まで30種以上の講座の中から好きな講座を選び、丸2日間を思いきり楽しめます。午前と午後それぞれで大町市を深く知る事ができるでしょう。

KID'S DAY
https://kidsday.jp

それぞれ2日で合計4種類の講座が体験可能。講師はその趣旨に賛同して集まった各分野の地元専門家たち。募集人員は200人ですが定員がすぐに埋まる人気イベントです。日中、子どもたちが講座を楽しんでいる間、親は移住の下調べに出掛けられ、親子それぞれで大町市を深く知る事ができるでしょう。



竹花 聡さん(平成16年移住)
前 定住促進アドバイザー

この見聞録の
編集担当です。

子ども対象の行事予定チェックには

年4回発行される子ども・親子向け情報誌「がたがたっしん」がイベント情報収集には便利です。市役所ホームページからご覧いただけます。



●体育協会で情報が得られる団体一覧

0261-22-7658

大町市の習いごと事情 多彩な選択肢と恵まれた施設

昔から市民活動が盛んな大町市での習い事は、文科系、スポーツ系を問わず多種多様です。

大町市教育委員会の生涯学習課に登録されたサークルやグループは280余り。一覧はホームページからダウンロード可能です。



ダンスやバレエ、その他の文系サークルの情報は生涯学習課へ市内に七つある公民館・文化会館でも多彩な講座を開催していて、会員登録チラシ等も得られます。

一方、スポーツ団体の主なものは体育協会が窓口です。

もう一つの利点は、施設が充実していることです。市に団体登録

をする、文化会館や総合体育館などの本格的な施設を低価格で借りることができます。これによりスタジオ借用料などの経費の心配が低減します。加えて予約の競合も少なめ。その結果、落ち着いて「学び」ができる環境が得られます。

また、「大町流鏑馬太鼓」「源流美麻太鼓」「八坂青竜太鼓」などの和太鼓チームや地域のお囃子連で伝統芸能を学ぶことができるのも大町市の特長です。

そのほか、進学塾や音楽、書道などの民間教室も揃っています。市内の博物館などにも自然・科学の学び組織があり、子ども向けプログラムが用意されています。

大町スポーツクラブ

身近な地域で、年代・性別・技術レベルに関係なく誰もが気軽に参加でき、住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブの一つで、大町市体育協会のスポーツクラブ事務局が窓口。複数種目がありますが、申込みおよび年会費納入は一括で行います。

- バレーボール
- 陸上競技
- 硬式テニス
- ドッジボール
- ソフトテニス
- クライミング
- ミニバスケケット(男子)
- ミニバスケケット(女子)
- ジュニアのスキークラブも二つあります。
- スキーチーム大町(S.T.O.)
(鹿島槍スキー場)
- 蓮華スキークラブ(爺ガ岳スキー場)



スポーツ少年団

市内のスポーツ少年団のリストです。申込みは個々の団体に行います。

- 大町サッカースポーツ少年団
- 女子サッカークラブFC大町ファイタ
- プチファイタ(小学生)
- タフィタU-15(中学生)
- 大町リトルリーグ
- ジュニア(幼児・小3)
- マイナー(小3・小5)
- リトル(小5・中1)
- 大町市少年剣道クラブ
- 日本空手道剛誠館スポーツ少年団
- 常盤柔道スポーツ少年団
- 常盤野球スポーツ少年団
- 八坂スポーツ少年団
- (バドミントン・サッカー)

※スポーツ少年団の詳細は、体育協会にお問合せください。

待機児童ゼロ!?どこにする? 大町市の「保活」事情

田舎暮らしは憧れ…
でもやっぱり働きたい!

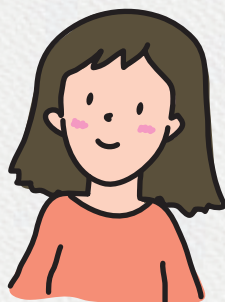
「ゆったり流れる時間の中で、しっかり子どもと向き合ってた寧に子育てがしたい」、「子どもには本物の自然の中でのびのびと育って欲しい」、「夫婦フリーランスで移住したいけど、在宅だと保育園はやっぱり不利なのかな」。

憧れはつきないけれど、母だつてやっぱり働きたい! それには預け先が問題です。「大町市の保活ってどうなってるの?」と心配なあなたに朗報なのが、待機児童ゼロ(令和2年4月現在)という大町市の現状。

7カ所ある保育園だけでなく、認定こども園になっている私立幼稚園も3園あり、希望する保育や教育にあわせて選ぶことができます。さらには野外保育を行なっている認可外保育園も2園。移住者を中心に人気が高いです。

「どこにする?もう決めた?」
「やっぱり幼稚園にしようかな:働くかどうか迷ってるし。もし仕事決まっても、そのままいられるから」毎年秋ごろになると、あちらこちらで、こんな贅沢な会話に花が咲きます。選択肢が多いのは良い事です。あなたもぜひ、大町市で「保活」、始めて見ませんか?

移住したてママS代
2歳の長男の保活を始めたばかり



これから仕事
探すんだけど、それ
でも保育園入れ
られるかな



◆ 保育園 ◆

7つの市立保育園があります。市内ならどの園でも選べるので、各家庭の事情に合わせて対応。ただし、入所希望の園が申し込み多数の場合、他園に変更になる場合もあります。

保育園の施設名と提供サービス一覧

	定員 (人)	長時間 保 育	未満児 保 育	土 曜 保 育	一 時 保 育
はなのき (大町若宮)	150	○	○	○	○
あすなる (常盤清水)	180	○	○	○	○
しらかば (平白樺)	60	○	○	—	○※2
どんぐり (社山下)	60	○	○	—	○※2
たけのこ (八坂大平)	45	○	○※1	—	○※2
みあさ (美麻二重)	45	○	○※1	—	○※2
くるみ (大町栄)	110	○	○	○	○
かえで (大町相生町)	休園中	—	—	—	—

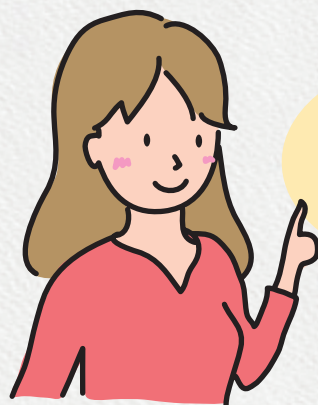
※1:1歳6か月～ ※2:土曜日を除く

野外保育でも
案外働けるわよ



少人数の
保育園も
オススメ

自然派先輩ママY美
小学3年を筆頭に
3人育児中



幼稚園も、こども園
になったから、働く
ママでも大丈夫よ。

教育ママA子
生まれも育ちも
生粋の大町っ子
長女4歳

保育園／幼稚園 あなたはどっち?

大町市子育て支援課

☎ 0261-22-0420
「保育園ガイド」



市のホームページで「保育園ガイド」を閲覧およびダウンロードすることができます。入園の基準や手続きが詳細に記載されていますので、ご一読されることをお勧めします。

えっ、仕事なくても
預けられるんだ



(特別利用保育)

八坂・美麻にお住まいで、幼稚園に通園できない3歳以上の子どものみに限り、保育園入園要件を満たしていなくてもお住まい地域の保育園が利用できます。詳細は大町市子育て支援課児童係にお問い合わせください。

わっこひろば「^{そら}宙」

☎ 0261-23-5711



市街地にある「若一王子神社」のすぐ近くに立地。普及型の「信州やまほいくの郷」認定園です。神社境内を中心にした野外保育と、室内での活動をバランスよく取り入れ、「こころ育て」を芯にすえた保育を行っています。

※上記 QR コードは Facebook ページへのリンクです。



宙

◆ 野外保育 ◆

屋外で自然に触れて活動することを大切にする保育スタイル。長野県では「信州やまほいくの郷」として認定制度を設けて推進しており、大町市の市立保育園はすべて認定園になっています。そのほか認可外保育園の2園も認定を受けています。

野外保育 風の森

☎ 070-2838-2140



一日の大半を大町の豊かな自然の中で過ごし、遊び、暮らすことで自然にもまれ、子どもたちは豊かな発想、強い心と体、慈しみの心を育みます。子どもたち一人一人に寄り添い、『個』を大切にした保育を心がけ、子どもの育ちを通じて関わる大人も育ちあえる場を目指しています。



風の森

◆ 幼稚園・認定こども園 ◆

市内に3つある私立幼稚園は、すべて認定こども園になっています。3園ともバス通園可。それぞれ特徴ある教育方針で人気です。

大町幼稚園

☎ 0261-22-0604



キリスト教の精神を基盤とした幼児教育を行う幼稚園（幼保連携型認定こども園）。JR 信濃大町駅との年間を通した交流や、地域の人へ感謝を届ける活動を続け、思いやりある子どもたちが育っています。子育て支援として、園開放「こひつじ広場」や園庭開放、未就園児体操教室なども行っています。

こまくさ幼稚園

☎ 0261-22-1134



大町市街地にある「幼稚園型認定こども園」です。田植えや稲刈り、脱穀などを体験する米作りや、野菜作りを基にした食育、また自分達で遊びを考え、深め、遊び込む中からの学びや育ちを大事にする幼児教育に力を入れています。子育て支援として、未就園児親子教室、また園庭開放も行っています。

りんどう幼稚園

☎ 0261-23-2611



平地区の借馬にある「幼保連携型認定こども園」です。園近くに子どもたちが育てる「ちびっこ農園」での畑活動や、地域の人たちを講師に親子で学ぶ「ふれあい参観」、公民館に出向いて交流するなど地域に根ざした幼児教育を行い、素直な子どもたちが育っています。

行政サービスの隙間にある 切実なサービス需要に応え 地域子育てを支援するNPO法人



☎ 0261-85-4055
<http://kidswill.net>



NPO法人キッズウィルが運営する「キッズハウス」は、夜7時まで預けられる学童保育と塾の機能を備えた、お迎え&おやつ付きアフタースクール。多忙な親御さんの要望に応じています。

また、キッズウィルは児童発達支援と放課後デイサービスを提供する児童通所支援事業所も運営。障がいのあるお子さんの自己実現に向けた支援を行っています。

上記3園は、延長保育を市保育園と同等時間程度まで行っていて、保育料区分も同等です。

医療・出産・産後ケア

やっぱり心配…
移住先の医療機関は要確認。

田舎暮らしで心配なことのひとつに、医療機関の充実度があります。特に子育て家庭ならなおさらです。「いざという時」のための施設は、前もって確認しておきたいものです。

大町市は小さな市ながら、信濃大町駅近くには「市立大町総合病院」があり、市街地を中心に歯科や内科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科などの小さなクリニックも充実。池田町には「北アルプス医療センターあづみ病院」、安曇野市に「安曇野赤十字病院」、「穂高病院」などがあります。さらに高度医療の拠点として「長野県立こども病院（安曇野市）」と「信州大学医学部附属病院（松本市）」との連携体制も構築されています。

産婦人科は、大町総合病院のほか、近隣の穂高病院や長野市・松本市の病院を利用するママさんいます。最近では、移住者を中心に自宅出産を選択する方もいます。

市では、保健師、保育士、助産師が常駐し、関係機関と連携して、妊娠・出産・子育てに関する総合相談窓口「子育て世代包括支援センター『あおぞら』」も中央保健センター内に設置していますので、気軽に相談してみてください。

地域のボランティア団体が小さな集まりなどを開いて子育てママや女性たちを応援しているのも心強いこと。さあ、あなたも「おおまち子育て」してみませんか？

市立大町総合病院

☎ 0261-22-0415

12 診療科、199 床を有し、周辺市町村（大北地域）の基幹病院として、大北地域では唯一分娩可能な病院です。24 時間体制で救急疾患に対応するとともに、療養病棟、訪問看護ステーションや、介護老人保健施設を併設するなどして地域に密着した医療を提供しています。また、信州大学附属病院の協力病院として、あらゆる疾患に幅広く対応することに努めています。

🏠 <https://www.omachi-hospital.jp/>

北アルプス平日夜間小児科・内科急病センター

☎ 0261-26-6199

文化会館の隣「フレンド・プラザ大町」内にあります。仕事終わりや夜間の子どもの不調時などに便利です。

■月～土曜日 午後 7 時～午後 9 時

（受付は午後 6 時 30 分～午後 8 時 45 分）

休診：日曜日、祝祭日、お盆（8/13～16）、
年末年始（12/29～1/3）

中央保健センター

☎ 0261-23-4400

子育て世代包括支援センター「あおぞら」

☎ 0261-85-8022

乳幼児健診、離乳食教室、育児相談などを実施しています。予防接種は市内などの委託した医療機関で受けます。また、中央保健センター内には子育て世代包括支援センター「あおぞら」があり、妊娠・出産・育児など様々な相談にのってくれたり、サービスや事業などの情報提供も行っています。

出張専門助産院「ふーみん」

☎ 0261-23-0015（出産取扱いなし）

市内の助産院では、妊娠・出産の各種相談・ケアを行っています。近隣のお産を取り扱う助産院については、（一社）長野県助産師会のサイトなどでご確認ください。

📧 of5599@ra2.so-net.ne.jp

🏠 http://sky.geocities.jp/nagano_mw/

児童センター

☎ 0261-22-0741

子育て家庭のための施設。年末年始以外の毎日、市内の 18 歳未満の子供が学習や遊びの場として利用できます。また、①大町西小学校の児童クラブ、②子どもとママたちで賑わう「子育て支援センター」（保育士が常駐し産後や育児の相談にも対応）、③会員登録した支援会員が自宅での一時預かりや送迎などを担う「ファミリーサポートセンター」事務局、なども併設しています。

女性健康支援 SANBA の会

☎ 0261-23-0308

助産師や看護師、保育士で作るボランティア団体。赤ちゃんや妊婦さん、ママ、更年期～高齢女性までの健康支援をしようと、市総合福祉センターなどで定期的に講座を開いています。マタニティヨガやベビークス、ベビーマッサージ、子育てサロンなどは、ママさんたちで賑わいます。

📧 sanba308@ra2.so-net.ne.jp

平地区に住む Y さんに聞きました！

子どもの病院に関しては本当に良かったよ。上の子は県立こども病院にずいぶんお世話になった。でも、車で 30 分ちよつとだからすぐ。下の子も喘息があつたから、大町病院にはしょっちゅう。夜とか救急で行っても、嫌な顔された覚えがない。しつかり目を見て話してくれて、ちゃんと患者として扱ってもらっている気がしたよ。場所によつては事務的にパツパと済まされちゃうと聞けれど、そんなことは一度もなかったな。道が空いているから救急車はすぐ来てくれるし、大町市内だったらどこでも車で 30 分もあれば病院まで着くから助かるよね。

うちの場合の話だけどね。



安曇野市の穂高病院と提携する同市内の助産院を利用し自宅出産！



自宅出産した T さんに聞きました！

1 人目の子どもを病院で、下の 2 人を自宅で産みました。1 人目の時には陣痛が来てから車で移動したり、歩いたりしたのが案外キツかったことを覚えています。自宅出産では、自分が一番リラックスできる環境で家族にケアしてもらいながら産むことができて、無理することも、周囲に気遣うこともなく、自然にお産に集中して楽に産めました。経過する陣痛などの時間を家でゆっくりと過ごし、子どもが産まれるその時に家族が深く関わられたことで、家族みんなで産んだ気持ちになれ、本当に祝福された幸せなお産ができました。良いお産でした。

子育て支援情報

(令和2年度現在)

※子育て支援策の詳細は以下をご参照ください。
大町市 HP「子育て・教育」



出産前

不妊・不育症治療助成

0 歳

出産祝い金

第1子…5万円
第2子…8万円
第3子…10万円

こんにちは赤ちゃん

民生児童委員がプレゼントを持って訪問

ブックスタート

4か月児健診で絵本をプレゼント



未満児の受入れは
概ね6か月から

所得に応じた保育料減免

更に
2人同時入所2人目半額
3人同時入所3人目無料

保育料無料

木のぬくもりプレゼント

1歳6か月健診時に県産材の
積みきをプレゼント



セカンドブックプレゼント

1 歳

2 歳

3 歳

子育て応援

3歳児世帯に
「地域商品券」
3万円分贈呈

4 歳

5 歳

小学生

入学お祝い

7歳児世帯に
「地域商品券」
3万円分贈呈

中学生

高校生

大町市奨学金(貸与型)
15,000 円以内/月

大学生
短大
専門学校

大町市奨学金(貸与型・給付型)
30,000 円以内/月

就学援助制度
(対象世帯のみ)

自園・自校給食
細かなアレルギー対応

お問合せ先

健診・訪問・相談全般

中央保健センター ☎0261-23-4400

保育料、子育て支援制度・手当全般

子育て支援課 ☎0261-22-0420 内線 682、757

子ども医療費、県民交通災害共済関係
市民課 ☎0261-22-0420 内線 435、463

学校、就学援助、奨学金関係

学校教育課 ☎0261-22-0420 内線 611、612

特別児童扶養手当

20歳未満で障害のある
児童を監護している父
母または養育に支給

児童扶養手当

18歳になる年の年度末ま
での児童の監護している
ひとり親家庭等に支給

大町市 子育て関連施設マップ



お問合せは **大町市定住促進協働会議** <http://iju-omachi.jp>

事務局：〒398-8601 大町市大町 3887 大町市まちづくり交流課定住促進係
 TEL：0261-21-1210（直通） 0261-22-0420（代表 | 内線 531・532）
 FAX：0261-23-4304 E-mail：teijuu@city.omachi.nagano.jp
 大町市公式 HP もチェック <http://www.city.omachi.nagano.jp/teiju/>

医療機関の一覧は下記のホームページでご確認を。

大町市
医療機関一覧



大町市
歯科医療機関一覧

